

授業科目 口腔外科学・形成外科学

【担当教員名】 今井 信行		対象学年	2	対象学科	言語
		開講時期	前期 b	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	○	
【概要・一般目標：G10】 ＜概要＞ 臨床歯科医学に続き、主として口腔・顎・顔面に発生する疾患の病態・診断・治療・予後・予防・鑑別診断などについて学習する。特に治療については関連の深い形成外科の治療の基本について学習し理解する。 小児・成人発声発語障害学、摂食・嚥下障害学の講義との関連が深い。 ＜一般目標・G10＞ 言語障害と関連の深い口腔・顎・顔面の形態・機能・疾患について学習する。治療については形成外科の基本を含めて理解を深める。					
【学習目標・行動目標：SBO】 ＜行動目標・SBO＞ 1. 顔面・頸部の疾患について説明できる。 2. 口腔軟組織の疾患について説明できる。 3. 顎と顎関節の疾患について説明できる。 4. 基本的な形成外科治療について説明できる 5. 口腔・顎・顔面の機能障害の診断・治療について説明できる。 6. 摂食・嚥下障害の診断・治療について説明できる。 7. 中枢性疾患による口腔機能障害について説明できる。 8. 加齢による口腔機能障害について説明できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	顔面・頸部の疾患 軟部組織、大唾液腺、神経系、心因性、リンパ系			1	講義
2	口腔軟組織の疾患 先天異常、発育異常、外傷、粘膜疾患、感染症、嚢胞、腫瘍			2	講義
3	顎と顎関節の疾患 1 先天異常、発育異常、外傷、感染症			3	講義
4	顎と顎関節の疾患 2 嚢胞、腫瘍、顎関節症、顎関節強直症、形成外科治療の基礎			3, 4	講義
5	口腔・顎・顔面の機能障害の診断と治療 1 言語・咀嚼機能障害の診断・治療			5	講義
6	口腔・顎・顔面の機能障害の診断と治療 2 摂食・嚥下障害の治療			6	講義
7	中枢性疾患による口腔機能障害 病態・治療・評価			7	講義
8	加齢による口腔機能障害 加齢による口腔機能障害、対応			8	講義
【使用図書】		＜書名＞ <著者名> <発行所> <発行年・価格 他>			
教科書 (必ず購入する書籍)		臨床歯科医学と同様			
参考書		臨床歯科医学で示したものの他に ナースのための新形 鬼塚卓弥編 金原出版 2001・2,000円＋税 成外科学			
その他の資料		毎回プリントを配布する			
【評価方法】 成績の評価は、出席状況と期末試験から評価する			【履修上の留意点】 毎回次回講義する部分のプリントを前もって配布するので予習を十分に行ってくる こと		